

## 「御霊の実は、愛」ガラテヤ 5：22-23

I 神から離れた私達の心が生み出す実は「不品行、汚れ、好色、偶像礼拝、魔術、敵意、争い、そねみ、憤り、党派心、分裂、分派、ねたみ、酩酊、遊興、そういった類のものです」：19-21。もし、私達の心の中に、御霊、つまり聖霊なる神が宿っていてくださらなければ、私達は、もっと不品行、汚れ、好色、偶像礼拝、魔術、敵意、争い、そねみ、憤り、分裂、分派、ねたみ、酩酊、遊興に支配された人生を送っていた事だろう。その恵みを思うと感謝が絶えない。心に御霊なる神が宿っていて下さる事を心から感謝します。

II 御霊なる神は、私達の心に神の愛を理解し、信じ、受け入れる心を与えて下さる。「真理の御霊が来ると、あなたがたをすべての真理に導き入れます」ヨハネ16：13。「聖霊によるのでなければ、だれも、『イエスは主です』と言うことはできません」Iコリント12：3。「御霊の実は、愛」。御霊なる神は、まず、神の愛を私達の心に教え、信じ受け入れる心を与えて下さる。感謝します。「神はそのひとり子を世に遣わし、その方によって私たちに、いのちを与えてくださいました。ここに、神の愛が私たちに示されたのです。私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、なだめの供え物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。…私たちは、私たちに對する神の愛を知り、また信じています。神は愛です。愛のうちにいる者は神のうちにおり、神もその人のうちにおられます」Iヨハネ4：9、10、16。

III 「御霊の実は愛」。「信仰によって義と認められた私たちは、私たちの主イエス・キリストによって、神との平和を持っています。…神の栄光を望んで大いに喜んでいます。それは、患難が忍耐を生み出し、忍耐が練られた品性を生み出し、練られた品性が希望を生み出すと知っているからです。この希望は失望に終わることはありません。なぜなら、私たちに与えられた聖霊によって、神の愛が私たちの心に注がれているからです」ローマ5：1-5。何と素晴らしい御言葉！私達は、聖霊により、神の愛を知る事も、本当に素晴らしい恵みだが、それだけではなく、聖霊によって、神の愛が実際に私達の心に注がれているのである。何という恵み！

IV 「御霊の実は愛」。御霊の実である愛は、神の大切な戒めを守る愛。「神を愛するとは、神の命令を守ることです。その命令は重荷とはなりません」Iヨハネ5：3。なぜ神の命令を守る事が重荷とならないのか？それは、①まず神が先に私達を心から愛されたから。②今も神の愛が注がれているから。③内住の聖霊なる神が、神の命令を喜んで守る心と力を与えて下さるから。神の大切な命令を二つにまとめたもの＝「心を尽くし、思いを尽くし、知力を尽くして、あなたの神を愛せよ」「あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ」マタイ22：37、39。

1. まず、ここで大切な事は、まず先に、私達の存在を神が愛された、そして愛されている事を聖霊様が、思い起こさせて下さる。「心を尽くし、思いを尽くし、知力を尽くして、わたし(神)を愛せよ」と言われる神ご自身が、先に、私達に命を与え、私達を心を尽くし、思いを尽くし、知力を尽くし愛されている。その愛が、口先だけの愛ではない事が、最も大切な御子を与えられたこと、御子なる神が、私達の罪の為に十字架につけられたことに、明確に現わされている。心から感謝しま

す！

2. あなたの隣人を「あなた自身のように」愛せよと言われている事。隣人を愛する為には、「自分自身を」正しく愛する事を学び続けなければならない。自分を愛するとは、他人の事を考えない自己中心の愛ではなく、神が赦された自分を、自分でも赦す事、神が受け入れられた自分を、自分でも受け入れる自己受容のことである。御霊なる神は、自己受容を助けてくださる。神の愛により、自分を受け入れる人は、他の人を受け入れやすくなる。素晴らしい神は、まず、ありのままの私達の存在を愛し、受け入れて下さる。「キリストが…私たちを受け入れてくださったように、あなたがたも互いに受け入れなさい」ローマ15：7。と同時に、罪の姿のままでもいいよではなく、聖霊なる神の力により、日々、主の御姿に変え続けて下さる。健全なセルフ・イメージが大切である。世のセルフ・イメージは非常に不安定なものである。自分の能力や容姿、自分が、又は人がどう思うかに振り回される。私達は、出来る時もあればできない時も、失敗する時もある。自分には、生きている価値がないと思いついてしまう時もある。自分の考えや人の評価、評判に土台を置いている価値感、セルフ・イメージは非常に不安定である。またそれは、歪められたものである。それならば、正しい、セルフ・イメージ、自己価値観の土台は何？それは、神の変わらない愛、真実な御言葉である→「わたしの目には、あなたは高価で尊い。わたしはあなたを愛している」イザヤ43：4。これこそ、私達の価値観、セルフ・イメージの揺るぎ無い土台である。

3. 神のあふれる愛をまず、受けて「隣人を愛する」とは？

- ① 人を、ただの人ではなく、神に愛されている人、主がその人の為に十字架にかかれたほど大切な人として見る、神の目で見ると。御聖霊は、それを助けてくださる。
- ② 神からいただいた愛で、その人が真に必要なものを与える。相手の立場になり考え（この想像力は神の賜物）、思いやり、祈り支える。
- ③ 相手が要求するものを、すべて与えるのは真の愛ではない。その人の為にならないものもある。神の愛こそ最高の模範である。神は私達が祈り求めるものを、そのまますべて与える方ではない。しかし、求める者に、真に必要なものを、必要な時に与えて下さる。だから私達には、識別力のある愛が必要である。御聖霊は、識別力を与えて下さる。神に、いつも祈り求めよう。「あなたがたの愛が真の知識とあらゆる識別力によって、いよいよ豊かになり、あなたがたが、真にすぐれたものを見分けることができるようになりますように」ペリピ1：9、10。
- ④ 人に与えると同時に、自分も助けを必要としている時、他の人から愛を受ける素直さが必要。

V 励まし。「御霊の実は愛」という事は、愛を私達の力で生み出しなさいという事ではない。私達は、難しい状況で、自分の力で愛する事は決してできない。ここに、良き知らせがある。真の愛を私達の心に、生活に実らせて下さるのは素晴らしい聖霊なる神である。私達の側にも、すべき分がある。それは、この御霊なる神に満たされ続ける事である。その秘訣は？①自分の罪を告白し、神から流れる霊的な命のパイプを詰まらせない。②毎日、どこかで、聖霊が記された聖書の御言葉を読み味わい満たされる事。③聖霊が臨在される礼拝に参加し満たされる事。④主にあるお互いが、御言葉の恵みを分かち合い、感謝と祈りの課題を分かち合い祈り合う事である。そのようにして私達は御霊に満たされる。